

社会保障審議会児童部会 第8回遊びのプログラム等に関する専門委員会 平成28年10月17日	資料 1
---	---------

第7回遊びのプログラム等に関する専門委員会主な指摘事項等

○日時：平成28年7月29日（金）16：00～18：00

○場所：厚生労働省専用第20会議室

【「プログラム実施にあたって専門委員会としての共通認識」について】

- 児童館の視点として「地域」を考えた場合、家族という視点は必要となるので、プログラム実施に際して基本に置いて欲しい4つの考え方（視点）の「地域」の中に「家族」という視点も加えるべきではないか。
- 家族に関する視点は「児童福祉におけるプログラム」の視点に組み込まれているため新たに加えなくてもよいのではないか。
- 家族と地域を一つの視点とした場合、それぞれの問題点が見えにくくなるのではないか。
- 子どもの健全育成に関して家族が担う役割はとても重要であるため、子どもやその家族を支えていく仕組みづくりを地域への取組みの中で行う必要があるのではないか。
- 「遊びのプログラムの実施にあたっての留意事項」において、「児童館職員や関係者が企画・準備した遊びのプログラムを、そのまま子どもたちにやらせるのではなく、企画・準備の段階から子どもたちを積極的に参加させて」とあるが、子どもの主体性を重視しながら子どもの参画を重視するという視点が重要ではないか。
- 子どもの発達や意欲、主体性を重視しながら児童館の職員が「参加させて」という趣旨を理解し、子どもたちをやる気にさせたうえで子どもの参画を促すという視点が重要と考える。
- 子どもを参画させることにとらわれすぎると、遊びのプログラムが子どもたちの居場所や自由時間を奪うことになりかねないので配慮が必要ではないか。
- 何かに参加しなければいけないというケースがあるが、課業から解放された子どもにとっては自由時間でありプログラムの参加は子どもたちの自主性に任せた方がよいのではないか。
- 遊びのプログラムが子どもを次から次へ遊びで追い立てる意図ではないと実施する児童館に伝える必要がある。

【「遊びのプログラム」実施にかかるアンケート及び報告書に記載する共通項目(案)】

- 子ども用のアンケートで、参加してどんなことを感じたかを聞けないか。また、保護者用について、保護者自らができることを聞けないか。
- できるだけ簡単なアンケートの方が回収率が上がるので、できるだけ項目を絞った方がよい。これを聞かないとうまく考察ができないというものに限って示せばよい。
- アンケートの回収方法についても配慮が必要である。
- 「報告書に記載する共通項目」の遊びのプログラムのカテゴリーに「劇遊び」、「ごっこ遊び」が入っていないが、今から加えることはできないか。
- 現時点での分類は仕様書にも記載されており、企画提案者はこれを基に企画、提案されているのため、遊びのプログラムのカテゴリーは変更できない。
- 遊びの分類に関するカテゴリーについては今後の課題としたい。

【プログラム実施児童館への視察に係るポイントについて】

- 視察の実施方法として、プログラムの内容に関して指摘や修正してはいけない。
- プログラムの実施状況が特にもひどい場合は限度があるが、『これはまずいですね』『こういうやり方がいいですよ』と行き過ぎた助言をしてしまうと、本来の研究としての視察を踏み越えてしまう恐れがある。
- 児童館のエビデンスづくりを考察する際に必要最小限の事項を確認すればよいのではないかな。
- 基本的に児童館の担当者から聞かれたら答えればよいのではないかな。